

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成23年1月6日(2011.1.6)

【公表番号】特表2010-510492(P2010-510492A)

【公表日】平成22年4月2日(2010.4.2)

【年通号数】公開・登録公報2010-013

【出願番号】特願2009-537357(P2009-537357)

【国際特許分類】

G 0 1 N	33/58	(2006.01)
G 0 1 N	33/531	(2006.01)
G 0 1 N	27/447	(2006.01)
G 0 1 N	21/78	(2006.01)
G 0 1 N	21/76	(2006.01)
C 1 2 Q	1/00	(2006.01)
G 0 1 N	33/543	(2006.01)

【F I】

G 0 1 N	33/58	Z
G 0 1 N	33/531	B
G 0 1 N	27/26	3 1 5 J
G 0 1 N	21/78	C
G 0 1 N	21/76	
C 1 2 Q	1/00	Z
G 0 1 N	33/543	5 7 5

【手続補正書】

【提出日】平成22年11月9日(2010.11.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

生体試料中の複数の標的をプローブする方法であつて：

(a) 固体支持体へ付着した複数の標的を含有する生体試料を提供する工程；

(b) 試料中に存在する1以上の標的へ少なくとも1つの蛍光プローブを結合させる工程；

(c) 工程(b)において結合した蛍光プローブからのシグナルを観測する工程；

(d) 結合した蛍光プローブを、蛍光プローブを実質的に不活性化する酸化剤を含む溶液で酸化する工程；

(e) 工程(d)の試料中に存在する1以上の標的へ少なくとも1つの蛍光プローブを結合させる工程；並びに

(f) 工程(e)において結合した蛍光プローブからのシグナルを観測する工程；

を含む、前記方法。

【請求項2】

工程(d)における溶液が塩基性溶液である、請求項1の方法。

【請求項3】

約20%より多くの蛍光プローブを固体支持体へ付着した標的から離脱させずに酸化工程を実施する、請求項1または2の方法。

【請求項4】

蛍光プローブが結合剤と蛍光シグナルジェネレータを含む、請求項1～3のいずれか1項の方法。

【請求項5】

工程(d)～(f)を1回以上繰り返す、請求項1～4のいずれか1項の方法。

【請求項6】

観測する工程(c)、工程(f)、又は工程(c)及び(f)において観測されるシグナルの1以上の強度値を測定することをさらに含む、請求項1～5のいずれか1項の方法。

【請求項7】

蛍光シグナルジェネレータがシアニン色素を含む、請求項4～6のいずれか1項の方法。

【請求項8】

生体試料中の複数の標的をプローブする方法であって：

(a) 膜へ付着した複数の標的を含有する生体試料を提供する工程；

(b) 試料中に存在する1以上の標的へ少なくとも1つの蛍光プローブを結合させる工程；

(c) 工程(b)において結合した蛍光プローブからのシグナルを観測する工程；

(d) 結合した蛍光プローブを、蛍光プローブを実質的に不活性化する酸化剤を含む溶液で酸化する工程；

(e) 工程(d)の試料中に存在する1以上の標的へ少なくとも1つの蛍光プローブを結合させる工程；並びに

(f) 工程(e)において結合した蛍光プローブからのシグナルを観測する工程を含む、前記方法。

【請求項9】

複数の標的を工程(a)の前に電気泳動によって分離することをさらに含む、請求項8の方法。

【請求項10】

固体支持体へ付着した生体試料中の複数の標的をプローブするためのキットであって：

蛍光シグナルジェネレータへ連結した結合剤を含む複数のプローブを含み、ここで酸化剤を試料へ適用するときに、その酸化剤が蛍光シグナルジェネレータを実質的に不活性化する、前記キット。